

明日香村の歴史的風土の保存と生活環境の整備等を今後一層進めるための方策 についての論点メモ

1. 明日香村の今後の方向性について

(歴史的風土に対する認識等)

- ・ 明日香村においては、千数百年の時を経た今もなお、飛鳥時代からの歴史的・文化的遺産と自然的・人文的環境、そして住民の暮らしが一体となって、かつての飛鳥文化の中心地であると同時に我が国で初めて律令国家体制が形成された地域であることを想起させる歴史的風土が形成されている。
- ・ 明日香村の歴史的風土は、古代の古墳や遺跡だけでなく、飛鳥時代以降も連綿と培われてきた自然環境や農村風景、岡寺門前や飛鳥寺周辺、檜前集落などの集落景観、祭礼行事等が重層的に積まれてきたことによって成り立っている。
- ・ これらの歴史的風土は、明日香村の住民の生業や日常の生活が古代より引き続いてきたことによって成り立っているものであり、住民の生活環境の整備が今後の歴史的風土の保存につながっている。
- ・ その一方で、人口減少、少子高齢化、農林業の衰退など明日香村の歴史的風土の担い手が減少し、その保存が困難になってきているほか、村内への観光客が呼び込めておらず、経済的にも硬直した状態。

(論点)

以上のような認識の下、

- 明日香村の歴史的風土は、我が国の律令国家としての体制が初めて形成された地であり、次世代に引き継ぐべき貴重な財産であることへの理解を深めつつ、国民的価値を有するものとしてその保存と創造的活用を図ることは、引き続き国策として奈良県・明日香村と連携して取り組むべき。
- 明日香村の歴史的風土は、古代の古墳や遺跡だけでなく、飛鳥時代以降、連綿と培われてきた自然環境や農村風景、祭礼行事等が重層的に積まれてきたことによって成り立っているものであり、改めてその価値を踏まえた上で、保存・活用について検討を進めるべきではないか。
- その際、人口減少が進んでいる現状を踏まえつつ、今後の社会経済情勢の変化の中でも住民が明日香に魅力や誇りを感じることができるよう、歴史的風土の「創造的活用」による地域経済の活性化や雇用の拡大について戦略的に取り組むとともに、歴史的風土を支える生活環境と産業基盤の整備の推進が必要ではないか。
- 明日香の資産を再認識した上で、他地域との差別化を図るとともに、個別の資産を有機的に連携させることで、国内外への訴求力を高めることが必要ではないか。

2. 明日香村を巡る現状・課題と対応方針について

(1) 国家基盤が形成された明日香の歴史を体感できる歴史展示の推進

(現状・課題)

- ・「明日香まるごと博物館構想」が掲げられているなかで、明日香村の歴史や歴史的風土の全体像について訪れた人が知ることのできる中心的な展示施設等が位置付けられておらず、村内においてどのような歴史等を体感することができるのか、テーマやストーリー設定が不十分。
- ・また、明日香村の歴史的風土の根幹をなす貴重な財産である歴史的文化的遺産については、県が策定した「明日香における歴史展示等のあり方基本方針」に則して各種施策が行われてきた一方、特に古代の遺跡や古墳は十分な説明がないと価値や魅力が理解されないなか、明日香村での展示・説明が不十分。
- ・古代の歴史的文化的遺産以外にも、大和棟の古民家や近世以降の集落形態が今も残されているものの、その情報発信や価値付けが不明確。
- ・H19 に「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」が世界遺産暫定一覧表に追加記載され、世界遺産登録を目指しているところ。

(論点)

- 多様な来訪者の誰もが明日香村の歴史・文化資産の価値やその全体像を理解できるよう、飛鳥資料館や万葉文化館等の既存施設も含めてそのあり方について現状を再点検し、望ましいあり方を検討すべきではないか。
- 歴史展示の推進は、これまでの発掘調査等の成果をしっかりと整理した上で、明日香村の歴史上特徴的である東アジアとの交流などの国際的な観点を踏まえながら、周辺地域と連携して世界遺産登録の実現にも寄与するよう、取り組むべきではないか。
- 飛鳥時代に造り出された制度や技術は、我が国の礎をなしたものであることを分かりやすく整理し、国民に飛鳥の価値を再認識してもらうべきではないか。
- 「明日香における歴史展示等のあり方基本方針」に則して行われてきた施策のフォローアップを行うとともに、「明日香まるごと博物館構想」と一体となって、点在する歴史的文化的遺産を活用し、ストーリー性を持った歴史展示の推進を図るべきではないか。
- 明日香村の歴史的風土をより多くの人々がわかりやすく実感できるよう、史跡の整備や、本物の文化財に接する機会の充実、観光振興を進めるためのキラーコンテンツの育成、VR技術の活用等による視覚的にも理解しやすい利活用方策の導入が必要ではないか。
- 飛鳥時代の遺跡等だけでなく、村内に連綿と引き継がれてきた祭礼行事や古民家・集落形態等について、歴史的文化的遺産の展示とともに、明日香の貴重な歴史的文化的資産として発信することが必要ではないか。

(2) 営農環境の基盤整備及び6次産業化等の取組や、民間主体と連携した明日香の歴史的風土を構成する自然的環境の保全に係る取組の推進

(現状・課題)

- ・ 農業従事者の高齢化が進展し、現在の人口減少傾向と相俟って、担い手の減少の加速が懸念されるとともに、耕作放棄地が村内に広く分布。
- ・ 農地の減少、荒廃農地の増大、鳥獣被害等により、明日香村の歴史的風土の構成要素である農村風景が損なわれる恐れ。
- ・ 農村風景をはじめとする明日香の景観を保全するため、集落単位毎の実情に即した景観計画を策定したところ。
- ・ 地元農家の参画による棚田オーナー制度などの取り組みが定着しつつあるものの、会員数は減少が続いている。
- ・ 農産物直売所では売り上げが増加傾向であり、生産意欲向上にもつながっているほか、近年では、6次産業化の取組も始めているところ。
- ・ 村内に散在する古都法買入地はH29年度末で約68ha。そのうち約4割は行政財産の使用許可による耕作により農村景観を維持しているものの、多くは十分な管理が行き届いておらず、自然災害リスクが高まっている状況。

(論点)

- 明日香村の歴史的風土はこれまでの時代変遷とともに重層性をもって現在に至っているが、今日的には農村風景が明日香らしさや歴史的風土を象徴する重要な要素の一つであり、今後もこの歴史的風土を保存する上で農地の維持・再生を意識して取り組むことが必要ではないか。
- 集落単位毎の景観計画の策定に伴い、計画の内容に沿った景観の保全に係る取組を引き続き行うことが必要ではないか。
- 農産物販売所や特産品開発等の功を奏しつつある取り組みも行われており、先進事例を参考にしながら、これらの取り組みを更に推進することで、従事者の所得・意欲の向上を図ることが必要ではないか。
- 荒廃農地の解消・減少を図り、定住人口確保にもつなげるためには、ＵＩＪターンや定年帰農などの新たな担い手の誘導・育成に重点的に取り組むことが必要ではないか。
- さらなる都市住民との交流機会の拡大を図るため、これまで推進してきたオーナー制度などの交流型農業を戦略的に行い、稼ぐ農業に寄与することが必要ではないか。一方、人口減少等に伴う農業就業人口の減少を受け止め、先端技術を取り入れるなど、新たな取組も視野に入れて、農業の継続的な発展を検討することも必要ではないか。
- 山林の林縁部において、獣害対策や里山景観の創出として緩衝帯の設定や広葉樹林化を行うとともに、里山体験のコンテンツの創出を目指すべきではないか。加えて、ジビエを活用した６次産業など、前向きな先進事例としての取組を検討するべきではないか。
- 村内に散在する古都買入地の適切な管理を図るため、歴史的風土や景観、歴史的文化的遺産等との関係を踏まえ、県・村において古都買入地の管理や利活用の方針を示すとともに、景観の維持・向上など歴史的風土の質を高めるよう、民間団体や企業等の民間主体との連携促進や、新たな維持管理技術を積極的に取り入れるなど、地域の実情を踏まえた管理・利活用を図ることが必要ではないか。

(3) 地域の祭礼行事や民俗芸能等の継承・発展

(現状・課題)

- ・ 明日香村内の歴史的文化的資産は古代の古墳や遺跡が主体となっているが、農村風景や祭礼行事、民俗芸能などの多くの歴史的文化的資産を有している。
- ・ 祭礼行事や民俗芸能は、村民の誇りの醸成やアイデンティティの確立、コミュニティの強化を通じた定住促進にもつながるとともに観光資源ともなる重要な要素である。
- ・ 飛鳥時代に通じる寺院の年中行事や各集落に伝わる農耕にまつわる祭礼行事、地域に伝わる郷土芸能などが村内に多数存在するが、少子高齢化に伴い、いずれも担い手が不足しており、継承していく上で課題となっている。
- ・ また、祭礼行事は、歴史まちづくりでは重要な歴史的文化的資産とされており、外国人観光客にも訴求力が高いものだが、明日香村の観光客には魅力として十分に伝わっていない。
- ・ 歴史的風土の創造的活用のために近年新たに実施してきたイベントについて、新たな明日香の「文化」として地域に根付き始めているところ。

(論点)

- 古代以外の歴史的文化的資産について、改めてその価値について積極的に評価を行うとともに、保存や活用を促進するための計画を位置付け、祭礼に係る記録・保存や活動支援等の取組を推進するべきではないか。
- 歴史展示の推進とあわせて、対外的な情報発信や行事発表の場の創出等により、活動自体の活発化を図ることで担い手の創出・育成が必要ではないか。また、小中学生への郷土学習、全世代の生涯学習の取組を継続し、村民が地域の伝統文化を学習・再認識できるよう取り組むべきではないか。
- 体験型観光の充実やインバウンドの促進の観点からも、祭礼行事等の一部をイベント化して観光客にも体験できるようにするなど、新たな施策が必要ではないか。
- 歴史的風土の創造的活用のために近年新たに実施してきたイベントについても、取組を継続することで、村民にとっての「文化」となり、次世代に継承できる新たな価値となるのではないか。

(4) 明日香らしさが体感できる取組や国内外の来訪者が快適に観光できる環境の整備による観光振興

(現状・課題)

- ・ 近年の観光客数はピーク時(180万人前後(S54~58))の40%程度で推移。
- ・ 観光客のうち、村内の宿泊客は1割にも満たず、宿泊型観光の推進が必要であるとともに、体験型観光に関するコンテンツが少ない。
- ・ 全国及び県内のインバウンドが近年急増しているなか、明日香村においてもインバウンド促進に係る取組を始めているものの、周辺地域と比較して、その成果は一定程度に留まっており、外国人観光客のニーズ調査が不十分であるほか、ターゲットを絞った的確なPRが不足している。
- ・ 観光資源として、古代の歴史的文化的遺産が主体となっているが、明日香村には農村風景や祭礼行事、江戸時代以降の建築物や集落形態などの多くの観光資源を有しているものの、国内外に対して十分に認識されていない。
- ・ 多言語化対応やインフォメーションセンターなど、インバウンドに対応するための周辺環境整備も未だ整っていない。

(論点)

- 明日香村の歴史的風土を形成している歴史的文化的資産を活用した観光振興に向けて、専門家等の力を借りるなど、観光客のニーズの的確な把握等を行い、観光に係る総合的かつ戦略的・計画的な方策を検討・立案すべきではないか。
- 来訪者の増加を図るためには国内外への明日香の魅力のPRが極めて重要であることに鑑み、県、旅行エージェント等との連携による体制の強化や、来訪者のニーズに対応した村内も含めた情報提供ツールの充実や観光施策の大きな方向性を示すべきではないか。
- 特に、海外に対しては、東アジアをはじめとした国際交流があったことのPRによる東アジア向けの誘客促進、古民家ステイのPRによる欧米向けの誘客促進など、市場調査を綿密に行った上で、ターゲットに合わせた戦略的なプロモーションが必要ではないか。
- また、長期滞在型の観光も視野に、古民家ステイや農林業体験、祭礼行事への参加、歴史巡りなどの様々な要素を有機的に連携させてパッケージ化して売り出し、インバウンド促進を図る必要があるのではないか。
- 奈良県内や近畿圏内との広域連携による観光エリアの拡大を図り、周遊型観光等の充実による観光交流促進を図り、インバウンドへの対応を図る必要があるのではないか。
- 観光が経済的に波及するよう、宿泊観光を推進するべきではないか。その際、周辺市町に宿泊客が流出する現状を踏まえれば、宿泊施設の誘致の継続に加え、民宿をはじめとした既存の宿泊施設の継業、空き家の利活用等により、宿泊施設数の維持・拡大を目指すべきではないか。併せて、明日香村の観光拠点となる施設や周遊道路、案内サインの整備、無電柱化の推進、多言語化対応などの周辺環境の整備についても、引き続き推進することが必要ではないか。
- こうした取組を通じて、観光産業の活性化を通じた雇用拡大や地域産業の活性化を目指していくべきではないか。

(5) 村民が定住できる生活環境基盤の整備

(現状・課題)

- ・ 過疎地域に指定されたことや高齢化の進行は喫緊的課題であるとともに、明日香の住民としての誇りの醸成が不可欠。
- ・ 村内の生活環境の整備は、これまでの取組によって着実に進められているところだが、地域防災の強化や広域連携等の今日的なニーズへの対応が必要となっている。
- ・ 住民の暮らしにより歴史的風土が形成されていることを踏まえ、明日香村への定住促進に係る取組を行っているものの、雇用環境等の条件から、若い世代の流出が著しい。
- ・ 村内には、江戸～明治期に建てられた奈良県を代表する特徴的な大和棟の民家が数多く残っている一方、空き家も多く見られ、保存・活用が進まない状況であり、古都保存法に基づく規制により、住居取得や改修費用が周辺自治体よりも割高となっており、定住・移住の足枷となっている。

(論点)

- 人口減少が深刻ななか、住民の交流や防災の拠点整備等を行い、地域コミュニティの醸成等に早急に取り組むべきではないか。
- 約6割の村民が村外で就業していることを踏まえ、村内の雇用拡大が必要であり、農業や観光産業等を含めた産業振興による雇用環境の整備等を検討することが必要ではないか。
- 空き家のリノベーション等による古民家の減失を抑制するための施策の充実や、既存ストックの有効活用による定住人口確保が必要ではないか。

3. 今後の取組を進めるにあたって

- ・ 明日香村の将来像の実現に向け、これまでの歴史展示の推進や生活環境及び産業基盤の整備・充実に加え、農業の活性化及び自然的環境の保全による歴史的風土の質の向上、観光振興、海外への情報発信等に重点的に取り組むことが必要であり、その際、国、県、村及び様々な団体との連携を図るべき。
- ・ また、歴史的風土を保存していくうえで住民や国民の理解・協力・参加を得ることが必要であるため、歴史的風土の保存や創造的活用に係る情報・参加機会の提供の充実に図るとともに、地域づくりを担う人材の確保も不可欠であるため、人材の発掘と育成を図ることも必要。
- ・ 県が策定する整備計画においても、明日香村を取り巻く社会情勢等の変化を踏まえ、歴史的風土の創造的活用、自立、交流の視点を重視して策定される必要があり、これらを明日香村の将来像の具現化を図るための国・県・村の共通の指針として機能させることが必要。
- ・ 明日香村整備基金の運用益が創設以来最も厳しい状況の中で、歴史的風土の創造的活用による地域活性化や歴史的風土の保存のためのきめ細かな景観の維持・向上等が必要となっている状況に対応するため、歴史的風土創造的活用事業交付金による支援について今後も引き続き継続するべき。
- ・ さらに、整備計画をはじめとする明日香村に係る施策を的確かつ着実に推進するためには、村の現状や各種施策の実施状況を定期的に把握・検証・評価し、これを踏まえてより効果的な施策実施につなげるマネジメントの仕組みを導入することが必要である。